

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインの授業を実践し、楽しく学び、確かな学力を育成する。</li> <li>どの子にも分かる楽しい授業を展開し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎基本の力を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査や全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査において評定1の児童を減少し、全国比や県比+7P以上をめざす。</li> <li>単元テストでは単元終了後1週間以内の調査結果を90%以上にする。</li> <li>「ことばのきまり」のまとめのテストの全校正答率80%以上をめざす。</li> <li>学校評価アンケート「②授業が分かりますか」「⑥勉強で分からないことを質問しやすいか」において「そう思う」と答えた児童の割合を50%以上にする。</li> <li>学校コンサル事業において、児童の自主的な学習や自己肯定感、効力感の形成に関して肯定的な方向に伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学方向上のための組織的な校内研修体制づくり</li> <li>子どもにわかる授業づくり(授業づくり)スタンダードの活用など)</li> <li>学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究組織2部会(研究、生活)に全教員、支援員が所属し部会を行う。部会の下ろしを職員会で提案、協議することにより研究のペルをそろえる。</li> <li>2部会が連携し、学校ビジョンに向けて学校評価システムの有効活用を図る。</li> <li>学校組織マネジメント、特別支援教育を柱に据えた学校づくり、キャリア教育、スーパー食育スクールの取組を進めるための研究を行う。</li> <li>実践交流型研修を年間3回行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに、研究についての反省を行い、全教職員で協議する。</li> <li>講師招聘により、研究の基礎・基本となる研修を行い、意欲的に研究に参画する。</li> <li>中学校との連携を図り、9カ年の系統的な取組という意識を持つ。</li> <li>学校評価自己評価書を全教職員で確認し、学校評価委員による学校評価をすべてAを目指す。</li> <li>学校コンサル児童、教員アンケートの結果、児童の自己肯定感や主体性、教員の個別的傾向を改善する意識・意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックごとに講師を招聘し、全員が算数科の公開授業を行うことができた。教員のコンサルやユニバーサルデザインの意欲が位置付き、意識の高まりや工夫も見られた。また、授業後の児童による授業評価を行い、課題を次に活かすなど積極的に授業改善にも取り組めた。</li> <li>中学校との連携では、授業を参観することはできていたが、系統的な取組までには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインの観点からみても、進級したときに児童一人一人に応じた細やかな引き継ぎ(支援内容等)を行っていく。中学校との連携においては、授業参観のみに終わらず、算数科であれば、指導のための用語・内容等の具体的な連携ができるよう時間を確保していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チーム大宮」のスローガンのもと、先生方の意欲的な取り組みが出来ている。</li> <li>校内研修が計画に沿ってよく出来、授業後の児童の肯定的評価につながっている。数字的には、学校側の設定目標がやや高かった。</li> <li>その時間の授業への取り組みを児童個人で考え、ふり返りも出来ている。</li> <li>友達との関わり、協同的な学びを目指した小中連携の授業が工夫されている。</li> <li>配慮が必要な児童に対する放課後の個別指導が全学年で行われている。</li> <li>個々の児童が興味を持った自主学習に取り組み、今後の発展が楽しみである。</li> </ul>	S ・ A ・ B ・ C
		<ul style="list-style-type: none"> <li>温かい人間関係を基盤にした豊かな心を育成する。</li> <li>規範意識の高揚をめざす。</li> <li>道徳教育、図書館教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-U調査学校生活不満足群児童の数の減少、要支援群児童3名以内をめざす。</li> <li>学校評価アンケート「読者が好き」「学校の図書館の本をよく読んで」の肯定的評価90%以上を目指す。</li> <li>推薦図書達成率を全校で90%以上を目指す。</li> <li>キャリア形成に関するアンケート調査において「自分には良いところがあると思う」の項目で肯定的な回答を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書や読み聞かせを実施し、親子読書を進め学年別推薦図書を設定する。また、学校図書館を活用する。</li> <li>道徳の時間や各教科、特別活動の時間を活用し自己肯定感を育成していく。Q-U調査2回実施。</li> <li>「大宮っ子4つの約束」に取り組む。①トイレのスリッパをせいとんしよう②うろかは右側を静かに歩こう③無言でそうじしよう④あいさつをしよう</li> <li>総合的な学習の時間や各教科、縦割り班活動を通して、人と人との「つながり感」を意識したキャリア教育を進めていく。</li> <li>OPPシートの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート肯定的評価95%以上を目指す。推薦図書達成率を全校90%以上を目指す。</li> <li>全学級担任が道徳の公開授業を実施する。</li> <li>Q-U調査学校生活不満足群児童の数の減少、要支援群児童3名以内。</li> <li>4つの約束肯定的回答90%以上をめざす。</li> <li>キャリア形成に関するアンケート調査において「自分には良いところがあると思う」肯定的回答群90%以上をめざす。</li> <li>総合的な学習の時間においてOPPシートを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの肯定的評価は93%であり、推薦図書の達成率は70.7%(2学期末)であった。</li> <li>全学年が道徳の公開授業をすることができた。</li> <li>2回目のQ-U調査においては要支援群児童が8名であったが、不満足群の減少傾向が見られた。(28名-10名)</li> <li>4つの約束の肯定的回答は91.8%であったが、廊下を走っている児童の姿は、まだ多い。</li> <li>キャリアアンケートの「自分には良いところがあると思う」肯定的回答は90.2%であった。</li> <li>OPPシートは、活用できたが、全学年での活用には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦図書の達成率の向上に向けては、達成率を視覚化して呼びかけたり、推薦図書に親しむ時間を確保したりして改善を目指す。</li> <li>Q-U調査の要支援群児童の減少に向けては、日頃の児童の様子に目を配るとともに、児童の頑張りや良さをみんなで認め合うことを大切にしていきたい。</li> <li>キャリアアンケートの自己肯定感を更に高めていくために、自分で「決める」「進める」「振り返る」活動を充実させて、達成感を持つことができる取組とする。</li> <li>4つの約束においては、児童・全教職員で徹底して取り組んでいく。そして、家庭にも、「ALWAYS香北の夕日」のお便りを通して呼びかけ、協力を願っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の地道な取り組みが成果をあげ、児童の自己肯定感の高まり、学校生活での不満足群の減少につながり嬉しい。</li> <li>「推せん図書」の達成率を上げ、「図書館教育」の大宮小の伝統を守ってほしい。</li> <li>児童に対するアンケートの中でこれからやってほしいの項目の「いじめをなくしてほしい」の希望が多かったことに留意した取り組みを望む。</li> </ul>	S ・ A ・ B ・ C	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>全国水準の体力を持った児童の育成をめざす。</li> <li>基本的な生活習慣を確立し、望ましい食習慣を身につけ、食事を通じて自らの健康管理ができる子の育成をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストにおいて全ての種目で全国平均の数値を目指す。</li> <li>水泳指導における外部講師活用。</li> <li>外遊びも含めて、日常的に運動習慣の身についた児童を目指す。</li> <li>基本的な生活習慣を確立し、自立できる児童の育成を目指す。</li> <li>朝ご飯はほぼ全ての児童が家庭の協力によりできている。早寝、早起きができる児童を80%台にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿った系統的な体育の授業の実施。</li> <li>持久走大会の実施。・校外行事への参加。</li> <li>水泳指導における外部講師活用。</li> <li>月1回の体育集会の実施。・大宮カップの実施。</li> <li>外遊びの推進。</li> <li>生活習慣、運動習慣形成のための保護者への広報活動を行う。</li> <li>めざせ!生活リズム名人!に取り組むとともに、食事しらべを実施する。</li> <li>避難訓練(地震、火災)の実施、及び引き渡し訓練の実施。</li> <li>安全教育プログラムを活用した授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「運動が好き」「運動を進んでいる」の肯定的回答を90%以上にする。</li> <li>「15分休みや昼休みに体を動かして遊んでいる」の肯定的回答を90%以上にする。</li> <li>年5回以上発信し、家庭との連携を図る。</li> <li>生活リズム名人! 80%以上をめざす</li> <li>避難訓練(4回)や引き渡し訓練(1回)を実施し、関連づけて防災の授業を行う。また、指導事後アンケートを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動が好き」「運動を進んでいる」に関しては、95%の児童が肯定的な回答をしている一方、「休み時間に体を動かして遊んでいる」の問いは85%の達成率になっている。</li> <li>生活リズムチェック期間前には前回のふりかえりも載せ、便りを発行した。</li> <li>徐々に名人になる児童は増えてきたが50%未満どまりだった。</li> <li>避難訓練(4回)・引き渡し訓練(1回)、防災の授業を実施することができた。避難訓練においては、回数を増やす、発生の時間を変える。また、事前・事後の指導(含アンケート)を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動好き子どもは育ってきているので、今後も体育集会を通して外遊びの啓発に努めたり、体育科の学習の中で体を動かす習慣を身につけさせたりすることを継続していく。</li> <li>朝食や歯みがき、家庭学習時間などは一定の達成率を保っており、習慣化されているが、早起き、自立起床、早寝、テレビ・ゲームの時間などがまだまだ身につけておらず、保健指導で学級を回ったり、保健便り等で家庭にも啓発していく。</li> <li>引き渡し訓練時に、運動場への車の出入りについての訓練を行ってきたい。また、社会見学時には、「津波浸水深予測MAP」等を活用したり、バスの運転手さんと方角を一を想定して、どこへ避難するかを話し合っておくなど、災害に備える意識を日頃から培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が好きという児童が増え、休み時間等、外で遊ぶ元気な姿が見られた。教師と児童がいっしょに走り遊ぶ姿はほほえましい。</li> <li>生活リズム名人は、家庭での生活が変わってきている面もあるので、保護者との話し合い、協力も一層必要だろう。</li> <li>現状分析がよく出来ているので、来年度、更に広報することを期待する。</li> <li>防災訓練の計画・実施がよく出来ている。</li> </ul>	S ・ A ・ B ・ C	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者と連携して、夢や希望を持って努力し、意欲を持って学び続ける児童を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した体験活動の充実を図り、キャリア教育の実践に活かす。</li> <li>PTA行事や地域の人材を活用し、保護者や地域とのつながりの中で児童に体験活動をより多くさせる。</li> <li>キャリア教育を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部からの人材を活用し、総合的な学習の時間や生活科において、児童が地域の方とのふれあいを通して主体的な活動を進める。(地域の方と連携した児童の体験活動を増加させる。)</li> <li>学校地域支援本部を活用し、多くの地域の方に学校に向かいに来てもらう。</li> <li>保護者の関心を高めるよう、学校の様子を学級通信、学校便り、メール配信等により発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が地域へ出向いて体験活動できる時間を増やし、地域・保護者の方と関わる。</li> <li>学校地域支援本部事業として参加していただく人数を増やす。</li> <li>参観日等学校行事への地域の方、保護者の方の数を増加させる。</li> <li>情報発信の内容を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年PTA行事は2学期までに5学年が実施し、親子で楽しい時間を過ごすことができた。宿泊学習、愛あいふれあい祭り、生活・総合的な学習の時間の中で、地域の方と交流し関わりを持つ時間が確保できた。また、人権学習や食の講演会を実施し、保護者や地域の方に参加してもらうことができた。(ポスター・ちらしで啓発)足を運んでもらえるよう参観日や学校行事を土曜日に多くとったが、逆に保護者の負担感につながったという意見が聞かれた。</li> <li>学校の主な取組を学校便りを通して詳しく伝えることができた。eメッセージは、学校行事や不審者情報等を発信し、タイムリーな情報提供であると評価を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会・愛あいふれあい祭り・学習発表会などの学校行事についても児童による案内状を町内の区長便を通して配布する。</li> <li>来年度は、「キャリアチャレンジDAY」と「愛あいふれあい祭り」を合体させ、より地域や保護者と学校の関わりを強める学校行事となるよう工夫していく。また、「はるかせ運動会」と「キャリアチャレンジDAY」以外の参観日や学校行事は、できるだけ平日に行うようにする。</li> <li>また、行事の際の車の出入りがスムーズに行えるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの情報発信力が高く、具体的で、学校の考え方、行事、児童の姿などが適時によくわかった。</li> <li>保護者の意見、話を学校がよくきけている。</li> <li>地域の人といっしょに行事ができ、講演などもきけて、交流が深まった。</li> <li>行事を土曜日に実施したことで保護者も参加しやすく有効だと思う。継続してほしい。</li> </ul>	S ・ A ・ B ・ C			
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの児童の個性の尊重ときめ細かく対応する教育を推進する。</li> <li>関係機関との連携を図りながら、通常学級の中で特別な支援を必要とする児童に関わり、課題の解決に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育への理解を深め、校内支援委員会を定期的に開催し支援を行う。</li> <li>特別支援教育の充実を図るため、ユニバーサルデザインの授業作りのための研修に努め、実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に校内支援委員会を開催する。不登校児童など支援の必要な児童について学校全体で共有を図り、適切に対応する。</li> <li>通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童について巡回相談等を活用し、支援の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインの授業研究を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援委員会の開催回数と内容を充実させる。</li> <li>学校評価アンケート「学校・学級が楽しい」の肯定的評価を90%以上にする。</li> <li>ユニバーサルデザインの授業を全教員が実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部のSSWを含めて定期的に校内支援委員会を開き、適切な支援方法を共有できた。</li> <li>学校評価アンケートの結果、学校が楽しいは90%、自分の学級が楽しいは91%であった。</li> <li>ユニバーサルデザインの研究授業を全クラス実施することができた。日々の授業においても、ユニバーサルデザインに基づいた実践ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援委員会がさらに充実するように、専門研修を受けながら、適宜、外部機関とも協力して有効な具体的支援策を考えていく。</li> <li>学校評価アンケートの結果、学校が楽しいは90%、自分の学級が楽しいは91%であった。</li> <li>ユニバーサルデザインの研究授業を全クラス実施することができた。日々の授業においても、ユニバーサルデザインに基づいた実践ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中の連携を深め、ユニバーサルデザインの視点を重視して、全教職員で特別支援教育への取り組みが出来ている。</li> <li>各学級の中で支援を必要とする児童への配慮が出来ているが、更に力を入れてほしい。</li> </ul>	S ・ A ・ B ・ C			